

平成 24 年度環境技術実証事業 VOC 等簡易測定技術分野
技術実証検討会（第 2 回）
議事要旨

1. 日時：平成 24 年 10 月 10 日（水）10:00～12:00

2. 場所：ルーテル市ヶ谷センター 2 階 第 1 会議室

3. 議題

- (1) 実証対象技術の選定
- (2) 同一規格の製品の審議
- (3) 実証試験計画（素案）について
- (4) 今後の検討スケジュールについて
- (5) その他

4. 検討員出欠（敬称略）

出席：有菌幸司（座長）、岩崎好陽、斉藤龍司、坂本和彦、佐々木裕子、土井潤一

5. 配付資料一覧

- | | |
|--------|---|
| 資料 1 | 実証対象技術の公募結果 |
| 資料 2 | 同一規格の製品の審議 |
| 資料 3 | 実証試験計画（素案） |
| 資料 4 | 検討スケジュール（案） |
| 資料 5 | 環境技術実証事業の広報活動について |
| 参考資料 1 | VOC 等簡易測定技術実証試験要領（第 4 版）平成 24 年 9 月 3 日 |

6. 議事

会議は公開で行われた。

(1) 実証対象技術の選定

- ・ 日本環境技術協会（以下、「事務局」という。）より資料 1 に基づき、平成 24 年度の「VOC 等簡易測定技術分野」の実証対象技術の公募が 9 月 4 日から 9 月 28 日の期間に、「室内環境」及び「作業環境」の簡易測定技術について実施されたことが説明された。
- ・ 公募の結果、2 社 4 技術の応募があったことが報告され、各々の技術の概要について説明がなされた。
- ・ 環境技術実証事業の実施要領に定められた「対象技術の選定の観点」を踏まえ、実証対象技術として問題ないことが確認され、環境省の承認を得た。

(2) 同一規格の製品の審議

- ・ 事務局より資料 2 に基づき、実証対象技術の濃度のレンジや検出器のランプが異なる場合に、同一規格の製品として見なすかどうかという検討事項が提起された。
- ・ 議論において、濃度のレンジについては排ガスレベルの濃度域についても、一部試験的に測定することで直線性を確認し、可能な限り全てのレンジを対象とするよう配慮することとされた。
- ・ 検出器のランプが異なる場合については、申請者と相談しつつ、一度に試験できる範囲において可能な限り複数のランプについて対象とすることを検討することとされた。

(3) 実証試験計画（素案）について

- ・ 事務局より資料 3 に基づき、実証試験計画（素案）に係る説明がなされた。
- ・ 実証実験を実施する温度等の条件について議論があり、標準的な条件を原則としつつ、申請者と調整しながら進めていくこととされた。

(4) 今後の検討スケジュールについて

- ・ 事務局より資料 3 に基づき、今後の検討スケジュールについて説明がなされた。
- ・ 平成 25 年 1 月に第 3 回技術実証検討会を実施するとの予定が確認されたが、実証試験の実施状況に応じて適宜調整があり得ることが了承された。

(5) その他

- ・ 環境省より実証事業の広報の状況について説明がなされた。

（文責：環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室）